

出題分析		
試験時間 80 分	配点 200 点	大問数 5 題
分量 (昨年比較) [減少 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/>	難易度変化 (昨年比較) [易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 難化 <input type="checkbox"/>	
<b>【概評】</b> 大問数は5題で、全体の分量、問題形式ともに変更は見られなかった。Ⅰでは昨年と同じく単語や熟語を完成させる問題が出題された。他は、Ⅱで単語の意味を推測する力、Ⅲ・Ⅳで会話文の理解、Ⅴで広く英文読解力が問われ、総合的な英語力が試されている。問題形式は多彩だが、個々の問題のレベルは標準的である。Ⅳは文意のニュアンスの判別に注意しながら、時間配分を考えて取り組みたい。Ⅴは昨年より難化し、判断に迷う選択肢も増えた。		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
Ⅰ	単語・空所補充問題	5つの単語から抜けている共通のアルファベット2文字を選ぶ問題と、熟語に関する空所補充問題が出題された。前者は基本的な単語の知識で答えを導けるが、後者は深い知識が求められる問題もあった。	標準
Ⅱ	語義推測問題 (メルヒオールというマジシャン)	英文中での下線部の語の定義を選ばせる問題。この形式は2012年度から出題が続いている。難解な語が多いが、品詞と文脈を頼りに見当をつけて正解に至ることができる。	標準
Ⅲ	空所補充問題 (初対面の二人の会話)	[A] [B] 共に、会話文中の空所を埋める表現を選び、文脈に相応しい文を完成させる問題。本文は読みやすく、基本的な会話表現を知っていれば解くのは難しくない。	やや易
Ⅳ	対話文問題 (フェミニズム学者へのインタビュー)	対話文の質疑に対して適切な応答を選択する問題。応答の選択肢は長めなものが多く、丁寧に読む必要がある。質問のキーワードが明瞭なものから正答を絞るのがポイント。	標準
Ⅴ	長文読解問題 (ソーシャルメディアと権力)	パラグラフごとの内容把握、論旨の選択問題、語整序問題、空所補充問題などマーク箇所は計14か所。空所が多いことでやや読みづらく、特に語句整序や文の並び替え問題には時間を要するだろう。	やや難

#### 合格のための学習法

語彙を問う問題で確実に得点できるか、読解問題ではいかに正しく論旨を読み取れるかが重要である。単語を覚える際は、正確な綴りだけでなく、派生語や、その語が持つニュアンス、コロケーションも合わせて学習したい。また、対話文の読解演習を行う際には、口語表現などの学習を心掛けたい。長文演習をする際は、500～1000 語ほどの英文を用いて段落ごとにその内容を要約しながら読み進める練習をしていくとよい。過去問演習をする際は、80 分という試験時間を意識して適切な時間配分ができるようになるまで繰り返し練習していこう。